

同志社小学校チャレンジウィークに協力

二年生 渡邊 治樹



この度、表題の件について翔友に記事を書かせて頂くことになりました。とは申せ、お読みになっている皆様は、「同志社小学校・・・？ チャレンジウィーク・・・？」となっておられると思いますので、まずは、“同志社小学校とチャレンジウィーク”という行事について簡単に説明します。同志社小学校は 2006 年に開校した本学の附属小学校で、左京区の岩倉にあります。ここの児童たちは附属校ということで、ほとんどが同志社大学に進学するそうです。そして、チャレンジウィークですが、小学校の児童たちが学年ごとに分かれて、任意のテーマに沿って学び、全学年の前でそ

れぞれ発表するという行事です。「お笑い」「高速ムカデ競争」「伝統的なダンス」等様々なテーマがあるそうです。

簡単に説明しましたが、「それって航空部と関係あるの？」と思われることと思います。

ですが、今回たまたま 3 年生のチャレンジウィークのテーマが“飛行機について学ぶ”というものだったため、同志社小学校の先生から部に協力依頼の連絡があったことに始まります。

しかし、詳しく話を聞いてみると、3 年生の児童がやりたいことは、飛行機について学ぶというよりは、「よく飛ぶ模型飛行機を作りたい」という

ものでした。誤解されがちですが、現在の航空部は「鳥人間コンテスト」に出場しているわけでも、模型飛行機を作っているわけでもありません。グライダーを操縦して空を飛んでいる部活動です。そんな私達が「飛行機づくりに協力できるか？」と悩みましたが、ほとんどが同志社大学に進学する小学生にグライダーに興味を持ってもらえれば、ある意味、「新勉活動になるのではないか!？」という思惑もあり、協力することにしました。そして、様々な紆余曲折がありながらも、無事チャレンジウィーク本番を迎えることが出来ましたので、以下にその記録を記したいと思います。

先生方や森川監督、学生間で相談し、今回は「格納庫に児童を招いて飛行機に対する興味、理解を深めてもらう」→「学んだ事を活かして模型飛行機の設計図を書く」→「小学校に行き、森川監督と学生の協力の下、模型飛行機を作る」→「出来た飛行機を飛ばす。試行錯誤を経て、2号機、3号機を作る」→「本番で飛ばす」といった流れになりました。

10月15日 格納庫にて

この日は、格納庫に3年生の90名を招きました。格納庫に90人も入るだろうかと不安もありましたが、いざ迎えてみると余裕の広さで安心しました。事前に航空部紹介のビデオを見てもらっていたのですが、実際に本物のグライダーを見て歓声が上がりました。ハト K-14、H-23C、ka-6、ASK-23、ASW-28 と様々な年代の5機で彼らをお出迎えしました。実際に、ASK-23を組み上げた状態にしていたので、その大きさにたいへん驚いたようです。また同時に「これって本当に飛ぶの?」といった声も聞こえました。また、天井からぶら

下がっているアローヘッドを見て、あの紐は何? (操縦桿とエレベーターをつなぐ鋼索でした) といった質問や、ASK-23のパタパタ動くエルロン部分に対し、これは何? といった質問がたくさん出ました。

そういった疑問が湧いてきたところで、森川監督に航空力学の解説をして頂きました。図や映像を使ったわかりやすいものだったので、真剣にメモをし、質問をする児童の姿が見受けられました。解説を聞いた後は、実際に ASK-23 のコックピットに座ったり、機体の周りを回って詳しく観察してもらいました。特にコックピットへの搭乗は大人気で、結局90名全員が体験しました。

午後からは、実際に格納庫前で既製品の模型飛行機を飛ばしました。午前中に学んだことを活かして、エレベーターを調節してみると飛行機はどう飛ぶのか、おもりの重さの違いで飛行機の飛び方はどう変わるのかなどを実際に飛ばしてみることで学んでももらいました。

10月23日 同志社小学校にて

この日は実際に同志社小学校に赴き、模型飛行機製作の補助を行いました。小学校では、この日までにある程度の作業が進んでおり、班ごとにデザインを決め、材料の切り出しの準備を進めている段階でした。実際に教室に行き、班ごとの様子を伺ってみると、グライダーに似たデザインのものからクジラのような形をしたものまで様々なデザインが練られていました。彼らの独創性あふれるデザインに驚きつつも、アドバイスをし、実際に材料を切り出し、組み立てを始めました。午後からは、組み立てた模型飛行機を飛ばしました。飛ばす時に持つ位置やおもりの重さ、翼や胴体の

形状にアドバイスをすると、おおむねどの班の模型飛行機もある程度の飛行をするようになりました。

10月31日 チャレンジウィーク本番

とうとう迎えた本番です。私たちも数人で小学校に伺い、3年生の発表を見届けました。児童たちは、23日に作成した模型飛行機の1号機を飛ばしてみてもう学んだことを生かして、31日の本番までの一週間、班のメンバーで協力し合い模型飛行機の2号機、3号機を作製していました。どの機体も児童たちの独創性と彼らなりに理解した航空力学の原理が組み合わさった素晴らしいものでした。

そして、ついに発表が始まり、体育館の壇上から次々と模型飛行機を飛ばし始めました。そんな児童たちの様子を見て私たちも緊張の連続でした。

合計18グループの中で、良く飛んだグループや、上昇し過ぎて天井にぶつかってしまったグループなど様々な結果でした。各班それぞれ一回きりの挑戦だったので、うまく飛行せず悔し涙を流す児童もいましたが、飛ばし終わったみんなの顔からは達成感のようなものを感じる事が出来ました。最終結果は、最高記録の20数メートル飛ばしたグループが優勝しました。

今回の一連の学習を通して、児童のみなさんも飛行機やグライダーに対する理解、興味が深まったと思います。私たちも、チャレンジウィークに協力する事で、飛行機やグライダーについて見つめ直す事ができ、本当に良い機会になりました。またこのような機会がありましたら、今回の事を活かしてよりよいものにしていければと思います。

今回、多大な協力をして下さった森川監督、同志社小学校の先生方、部員のみなさま、本当にありがとうございました。

追記

最初に述べた「新たな新勸活動になるのではないか!？」という思惑ですが、今回の企画を通して多くの児童から「将来航空部に入りたい」という声が聞く事が出来ました。しかし、そんな気持ちも今後薄れていってしまう事でしょう。10年後、彼らが同志社大学に進学し、展示されているグライダーを見て、今回のことを思い出してくれたら、そして航空部に入部してくれたらなあと思います。もっと欲を言えば、彼らの中で実際に入部した学生がこの翔友の記事を目にして、当時を懐かしんでくれたら本当に嬉しいです。最後に、そんな未来の部員がいると信じて書いておきます。

「入部してくれて本当にありがとう!」